

再評価個表

事業名	道路改築事業	事業主体	愛媛県
施設・工区名等	<small>おだかわべおおず</small> (主)小田河辺大洲線 <small>やまとさか</small> 山鳥坂1工区	事業箇所	<small>ひじかわ やまとさか</small> 大洲市肱川町山鳥坂
事業主旨	肱川町市街地中心部における幅員狭小・線形不良区間を迂回するバイパスを整備し、歩行者の安全性向上ならびに車両の走行性向上を図る。		
再評価の実施理由	「事業採択後10年が経過して継続中」の交付金事業		

1. 地域の概要

<p>主要地方道小田河辺大洲線は内子町小田から大洲市河辺町、大洲市肱川町を經由し、大洲市の中心部を結ぶ地域の幹線道路である。このうち、大洲市河辺町～国道197号までの区間については、山鳥坂ダム建設工事に関連する工事用道路兼付替県道として計画され、ダム事業とあわせて地元の同意を得ているが、ダム計画が定まるまで本格的な道路整備が先延ばしとなり、整備が遅れている。しかしながら、昨年1月に事業継続方針が示され、今後、山鳥坂ダムの建設工事により、工事用車両の通行による交通増加が見込まれる。</p> <p>当該路線は、市町村合併を行った大洲市・肱川町・河辺村を結んでおり、地域連携を担う道路であるとともに、通勤、買い物等の日常生活を支える生活道路として機能している。また、当該区間には、最小幅員が4m程度の歩道の無い1車線道路区間が存在し、歩行者等の通行の危険や車両の離合が困難な状況にあり、日常生活の支障となっている。</p>

2. 事業概要及び事業経緯

事業採択	平成17年	完成予定	平成30年
用地着手	平成20年	工事着手	平成20年
全体事業費	2,800百万円(うち用地補償費:42百万円)		
(1)事業概要	計画延長1,120m、車道幅員5.5m(総幅員7.0m)		
(2)事業経緯	現段階で供用している区間はない。		

3. 事業の必要性及び整備効果等

(1) 事業の必要性

現道は肱川地区の中心市街地を通過する道路であり地域の生活道路として機能すると同時に、河辺地区へとつながる幹線道路としても機能しているが、市街地内を通過することから沿道には人家や商店が連坦し、幅員が狭小であるうえに視距が不足し歩行者、通行車両ともに危険な状況であり、整備による市街地内の安全性確保が喫緊の課題である。整備においては、現道沿線に民家や施設が多いことから、事業費や地域への影響を考慮してバイパスによる整備としている。

また、対象路線は一次緊急輸送道路として災害時に通行を確保すべき道路であるが、沿線は急傾斜地崩壊危険区域に指定されており、災害時において確実に通行可能な代替路の整備が必要となっている。

(2) 事業の整備効果

①歩行者の安全性確保

- ・バイパスが整備されることで交通量がバイパスに転換することで現道の交通量が減少し、歩行者が通行する際の安全性の向上が期待される。
- ・肱川小学校への通学路において交通量が減少することで、通学中の児童の安全性の向上が期待される。

②災害時の通行確保

- ・災害時の避難や救命救急、物資輸送および復旧活動等を迅速かつ円滑に進めることができる緊急輸送道路としての機能を発揮できる。

③走行車両の快適性確保

- ・運転手の視認性が向上するとともに大型車とのすれ違いが容易になり、交通事故の回避が期待される

④合併支援道路としてのアクセス向上

- ・大洲市の中心部や公共施設等の拠点と旧河辺村を連携する道路として、当該路線を整備することにより、地域の活性化への貢献が期待できる。

⑤観光地へのアクセス向上

- ・自然や歴史遺産を生かした旧河辺村の観光施設へのアクセス性が向上する。

⑥山鳥坂ダム建設に係る工事用車両の影響対応

- ・現道の安全性及び既存市街地への影響を免れることができ、また、工事用車両の安全で円滑な走行を図ることができる。

(3) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

平成 25 年 1 月に、河辺川上流で計画されている山鳥坂ダム事業が再開。

当該路線は工事用車両の通行ルートとなることから、今後、大型車交通量の増加が見込まれる。

4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

(うち用地補償費) H25末投資事業費	(10百万円) [進捗率：23.8%](事業費換算) 693百万円 [進捗率：24.8%](事業費換算)
(1)事業の進捗状況	当該事業は平成17年度に事業着手し、平成20年度より用地買収および工事着手し事業が進められており、現時点で約25%の進捗（事業費ベース）となっている
(2)これまでの整備効果	現時点で、供用している区間はない。
(3)今後の事業進捗の見込み	用地買収、改良工事を推進し、平成30年度の全線供用を目指す。

5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

(1) 費用便益比

【事業全体】

C：総費用＝2,605百万円

- ・建設費 2,603百万円
- ・維持管理費 2百万円

B：総便益＝545百万円

- ・走行時間短縮便益 440百万円
- ・走行経費減少便益 70百万円
- ・交通事故減少便益 35百万円

$$B/C = 545 / 2,605 = 0.21$$

【残事業】

C：総費用＝1,589百万円

- ・建設費 1,587百万円
- ・維持管理費 2百万円

B：総便益＝545百万円

- ・走行時間短縮便益 440百万円
- ・走行経費減少便益 70百万円
- ・交通事故減少便益 35百万円

$$B/C = 545 / 1,589 = 0.34$$

6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造等の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

7. その他

主要地方道小田河辺大洲線のうち、本計画区間を含む河辺町～国道197号までの区間については、山鳥坂ダム建設工事に関連する工事用道路兼付替県道として計画され、ダム事業とあわせて地元の同意を得ている。その後、平成13年の事業再評価以降のダム計画見直しにより、工事用道路のルートと施工範囲に変更が生じ、本区間は工事用道路としての整備ができなくなったが、工事用車両の通過が想定され対策が必要である。

また、山鳥坂ダム事業は、平成18年に地権者協議会とダム事業に関する基本協定書を締結し用地調査を開始したが、平成21年12月に新たな基準に沿った検証の対象とするダム事業に選定されダム事業の検証にかかる検討がすすめられ、平成24年12月の事業再評価を経て平成25年1月にダム事業の対応方針として事業継続が決定された。

8. 対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。

1. 十分な精度で計測が可能かつ金銭的表現が可能とされている3つの便益のみを用いてB/Cを算出した結果、事業全体および残事業のB/Cは1未満となる。
2. しかしながら、現道は市街部における幅員狭小区間であり歩行者の通行における危険性が高い上に、周辺では山鳥坂ダムの建設工事がすすめられており今後工事用車両の増加が想定されることから、地域住民の安全性の確保の観点から市街地を迂回するバイパスの整備が必要である。
3. また、歩行者の安全性確保のほか、以下に示す多岐多様にわたる整備効果が期待される事業である。
 - ①災害時の通行確保
 - ・災害時の避難や救命救急、物資輸送および復旧活動等を迅速かつ円滑に進めることができる緊急輸送道路としての機能を発揮できる。
 - ②走行車両の快適性確保
 - ・運転手の視認性が向上するとともに大型車とのすれ違いが容易になり、交通事故の回避が期待される
 - ③合併支援道路としてのアクセス向上
 - ・大洲市の中心部や公共施設等の拠点と旧河辺村を連携する道路として、当該路線を整備することにより、地域の活性化への貢献が期待できる。
 - ④観光地へのアクセス向上
 - ・自然や歴史遺産を生かした旧河辺村の観光施設へのアクセス性が向上する。
 - ⑤山鳥坂ダム建設に係る工事用車両の影響対応
 - ・現道の安全性及び既存市街地への影響を免れることができ、また、工事用車両の安全で円滑な走行を図ることができる。

以上を総合的に判断し、継続としたい。